



事務所 伊那市西町5016-2 Tel(72)0077 例会日 毎週木曜日 会場 くぬぎの杜 Tel(78)1121
 会長 平澤泰斗 幹事 小河節郎 会報委員長 矢島 豪 第2942回例会 2021.8.19 No.1602



奉仕しよう みんなの人生を豊かにするために

2021-22年度RIテーマ

Serve to change lives

ソング それでこそロータリー

会長談話 平澤泰斗会長

15日の朝5時、私はスマホのけたたましい音で目が覚めました。スマホの画面には天竜川の沢渡水位観測所の水位が氾濫危険水位を超えたとの国交省からの連絡で、その後、市からも天竜川沿いに住んでいる方に「避難指示」が出ました。その頃岡谷市川岸では、土石流により3人の方が亡くられました。15年前と同じことが繰り返されてしまいました。ご冥福をお祈りします。この豪雨で中央道は伊北IC岡谷JCが通行止めに、飯田線も横川川橋梁が損傷したため伊那松島駅～辰野駅間が運休しています。中央道は本日、通行止めが解除されますが、横川川橋梁の復旧にはかなりの時間がかかりそうです。雨に弱い飯田線ですが、このような被害は記憶に在りません。この飯田線ですが、1983年までは旧型国電の宝庫として鉄道ファンの注目を集めていました。私も高校時代それらの電車に乗って通学していたのですが、その中で好きだった電車があります。それはクモハ52です。クモハ52は1936～1937年に急行電車として使用することを目的に製造されました。車体形状は当時世界で流行していた流線形を取り入れ、当時は「魚雷電車」後に「流電」の愛称で親しまれました。戦後間もない1948年に東海道線沼津～三島間で高速度試験が行われ、119.5Kmを記録しています。戦中、戦後、何回も改造され、飯田線に来た時はオリジナルとはかなり変わった姿になっていましたが、走る姿は他の電車と違う趣でした。1983年に廃車となり、日本車両製造に保存されていましたが、1991年に飯田線中部天竜駅構内に設置された佐久間レールパーク移され、塗装、外観をオリジナルに復元して展示されていました。その後、2011年名古屋港区に開館した、JR東海のリニア・鉄道館で製造時の姿に完全復元のうえ展示されています。数年前に新幹線300系「のぞみ」の運転席に座れるというイベントが、リニア・鉄道館であり行っ



てきました。「のぞみ」の運転席に座るといふ目的は達成し、そこに展示されている列車を見学しているとクモハ52を見つけました。展示されていたクモハ52は飯田線を走っていた時の、疲れ切った老人の姿でなく、若々しく躍動感のある姿になっていて感動しました。

私は飯田線を、夜の通勤電車として利用しています。メリットとして、醜態をさらさないように呑み過ぎず、終電の時間が11:10位なので朝帰りにならないことです。知り合いが伊那で呑み、伊那市駅で乗車し北殿駅で降りるのを寝過ごしてしまい伊那松島駅まで行ってしまい、福島の家で夜道を歩いて帰ったそうですが、かなりの時間がかかったそうです。私もそうならぬよう、呑み過ぎに注意して夜の電車通勤として飯田線を利用して行きます。

幹事報告 別紙をご覧ください

出席報告 会員数54名 内出席免除15名
 出席者29名 事前キーキャップ0名 出席率63.04%

ニコニコボックス 平澤泰斗・小河節郎

おやまのおうちデッキ製作が予定以上の作業が出来ました。参加された皆さん、ご苦労様でした。小林孝行 先日の会社火災時には、多くの方からお見舞いをいただき、お詫びと御礼申し上げます。藤澤秀敬 おやまのうちの作業にご参加いただき、ありがとうございました。

熊谷吏朗 本日、卓話をさせていただきます。唐木 拓 先日募金していただいたお金を、ヒルクライムレースの参加賞にさせていただきました。

委員会報告 「おやまのおうちデッキ製作報告」

8月12日(木) 藤澤秀敬国際奉仕・財団委員長

「おやまのおうち」にてウッドデッキを製作する例会が開催されました。当日はロータリークラブの会員、精鋭15名で滞りなく作業をすることができましたので、御礼とご報告を申し上げます。

(詳しくは次回例会で報告)



会員卓話 熊谷吏朗会員

演題-「私の履歴書」



昨年の10月に入会させていただいた、中部電力パワーグリッド(株)の熊谷です。私は、昭和42年生まれの53歳で出身地は飯田市上村です。下伊那郡松川町にて妻と娘と暮らしています。

出身地の上村は、2005年(平成17年)10月1日、南信濃村とともに飯田市へ編入合併しましたが、古くから遠山郷と呼ばれ、私が子供のころ育った下栗地区は、オーストリアのチロル地方と似ることから「日本のチロル」と呼ばれています。

当時、通学する中学校までは歩いて2時間以上かかる場所にあり、バスが通行できないことから、中学生になると親元を離れ、中学校の近くに整備されている宿舎に学校の先生と一緒に3年間暮らしていました。そんな地元で生まれ育ち、自然の中で色々と生きる力を養いました。今では良き故郷であり、良き思い出の場所です。現在では、道も整備され、私の母親も一人暮らししていますが、いつか「ポツンと一軒家」として登場するかもしれません。

私は、地元の高校を卒業して、昭和61年に中部電力(株)に入社しました。初任配属は飯田営業所ですが、その後、県内の支店や営業所、名古屋支店の法人営業部門などで勤務し、伊那へ赴任する直前は、長野支店の人事部署で、管内の人事異動や採用、安全・衛生を担務していました。

まさしく、私たちの事業の大きな使命は、地域の皆さまの暮らしに欠かせない電気の安定供給ではありますが、これまでの会社生活の中で、私自身が携わった記憶に残る大規模な災害復旧は2つあります。まず1つ目は、2019年10月、台風19号の影響により千曲川の決壊に伴う大規模な浸水被害が発生するなどして、他県の電力従事者や自衛隊などへ応援要請した台風災害です。この時は、長野管内を統括する支店の総務部署へ勤務しており、後方支援として、応援者を含めた大勢の現場作業員の衣食住の確保等のために指揮をとる毎日でした。また、現地へのボランティアにも参加し、被害の大きさを目のあたりにするとともに、被災者の方の悲痛な思いを痛感しました。

2つ目は、2014年2月、県内に記録的な大雪が降り、中でも飯田下伊那地域では2日間で積雪が81cmに達する記録的な大雪により、各地で交通麻痺や倒木などにより大規模な停電が長期間にわたり発生した雪害です。この時は、被災地を管轄する飯田営業所に勤務しており、しばらく会社へ寝泊りする日々が続いたわけですが、大雪のために交通の機能が停止状態になる中で、電力の復旧の難しさを痛感した次第です。

最近では、気候変動などの影響に伴い、強い台

風や局地的豪雨などの異常気象による災害が発生しており、多様な自然災害に電力の復旧も難しさを感じています。特にこの台風シーズンは、梅雨が明けても気を抜けない状況が続きます。これからも停電対策のための設備改良や早期復旧に向けた情報通信技術などの活用を進めていき、電力の安定供給の使命を果たして参りたいと考えておりますので宜しくお願いいたします。

話はがらっと変わりますが、カーリングというスポーツをご存知でしょうか。氷上で行われるウィンタースポーツで冬季オリンピック種目の一つでもあります。

約10年前のある時、社内で職場の一体感や従業員の士気向上を目的に「オリンピックを目指せるクラブを創ろう」となり、女子カーリングチームを立ち上げることとなりました。社内では、私を含めカーリングを経験した人はいりませんし、詳しい人もいません。そんな異色の経験や苦労話の一端をご紹介したいと思います。

まずは選手の確保です。あくまで普段は1日仕事をし、夜間や休日に練習をするということが基本となりますので、中部電力という会社へ興味があるジュニア選手(学生)へ「仕事をしながらカーリングをしてみないか」と、個別に声掛けして受験を勧め、他の社員同様、入社試験を受験し、合格した者を採用することから始め、地元の協会にお願いし、指導者の確保もしていきました。

創部して2年目では、日本選手権で見事5連覇中のチーム青森を下して初優勝を果たすまでのチームに成長し、社内でも大きく盛り上がりました。ただ、喜びに浸る間もなくそこから別の苦労がはじまったわけです。一番はマスメディア対応です。当時は、圧倒的に女子チームが注目されていました。その中で、5連覇中のチーム青森を下したことで、優勝以降、チーム、選手を取り巻く環境が一変したのです。選手への取材やスポーツメーカーなどからのスポンサーに関する問い合わせが殺到、また、熱狂的なファンからの選手保護にも追われました。また、選手への取材では、競技のことはもとよりプライベートや会社内のことなど広く質問されるため、社会人経験が浅く取材対応に慣れない選手たちがどのように応えるかヒヤヒヤして聞いていたのを記憶しています。その後、急いでスポーツ取材に特化したメディアトレーニングなどを取り入れていきました。チームはオリンピック出場決定戦であと一歩のところまで惜敗し、まだオリンピック出場は叶えていませんが、引き続き、2026年冬季オリンピックを目指しています。応援いただければ幸いです。

本日は、私の会社生活の中で印象深い出来事の一つをもとにお話しさせていただきました。このような私ですが今後とも宜しくお願い致します。